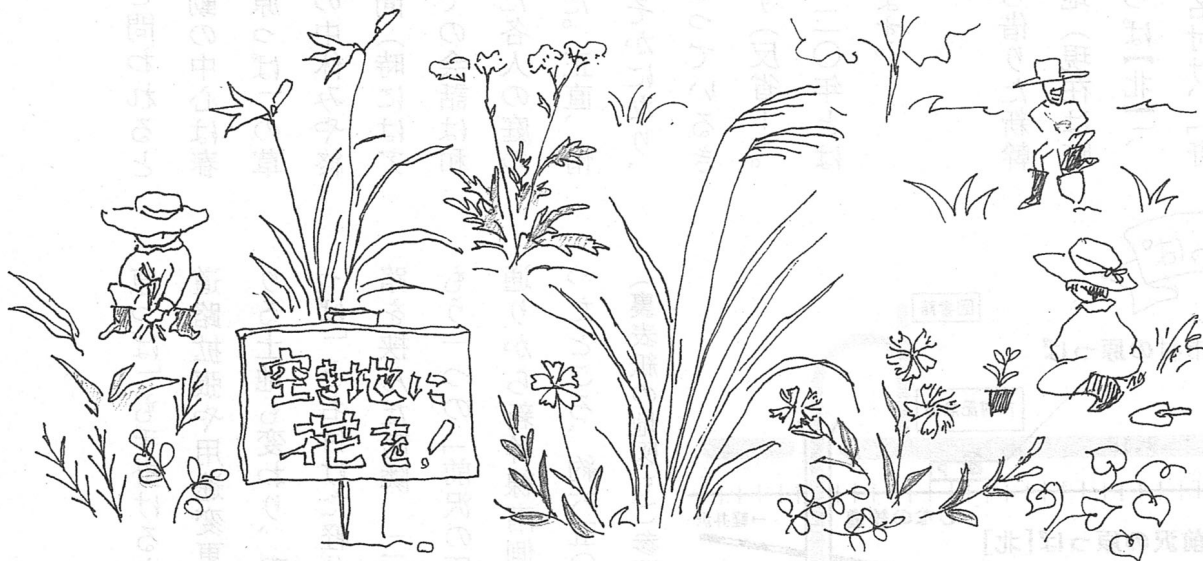


# われもこう 第39号

2018年4月25日 発行

## われもこうの会 20年の歩み



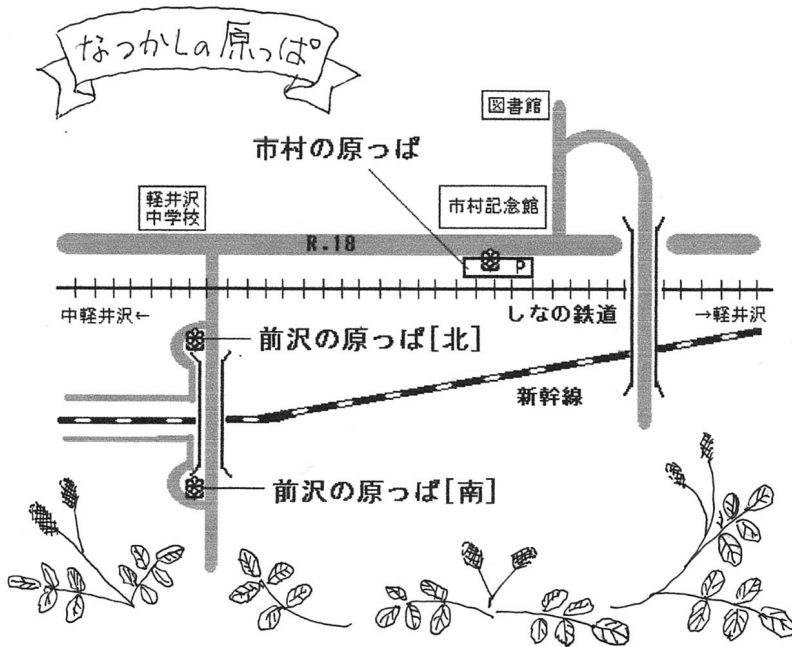
今、皆さんがお読みになっているこの「われもこう」の第一号は一九九八年四月の発行。今からちょうど二〇年前のことでした。

会の発足はその前の年の秋ですが、実際に活動し始めたのはこの時と行って良いでしょう。ちなみに長野オリンピックは、その二ヶ月前の一九九八年二月、長野新幹線開通は前年の十月です。これらに関連する土木工事は終わっていったとはいえ、町内ではあちこちに廃土がむき出しになっており、建築事業も盛んになっていました。軽井沢らしい風景が急速に失われていることに危機感を持ち「われもこうの会」が発足しました。そして「軽井沢らしさ」を取り戻すには何ができるだろうと考えた時、かつて軽井沢に咲いていた野の花を増やすことから始めることにしたのです。

～\* ～\* ～\* ～\* ～\* ～\* ～\* ～\* ～\* ～\* ～\* ～\* われもこうの会 20周年記念号

二〇年の成果は何かと問われると  
 いささか戸惑います。活動の中心は春  
 から秋、月二〜三回の「原っぱ」の草  
 むしりなのですが、作業の中休みや終  
 了後のお茶とお菓子の時間（時にはア  
 イスクリームも出て！）での会話は和  
 やかで楽しいのです。また各人の庭の  
 苗交換の場でもありました。正直、惰  
 性に流され、初心がおろそかになり、  
 行動そのものが目的になっていくき  
 らいなきにしもあらずです（反省！）。  
 この機会に改めて当会の二〇年とは  
 何だったのかを考えてみます。

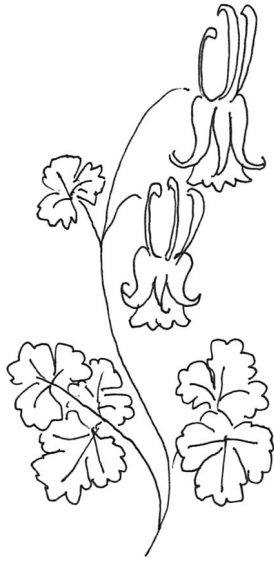
最初の年、開発公社から借りた新幹  
 線跨線橋のたもと空き地（現在は町  
 有地）二ヶ所を「前沢の原っぱ【北】」、  
 「前沢の原っぱ【南】」と名付け、「野  
 草園」の育成に力を注いでまいりまし  
 た。数年後市村記念館の向かい側、国  
 道と鉄道にはさまれた空き地「市村の



原っぱ」も手掛けるようになりました。  
 道路拡張や用途変更などで町から借  
 りる土地も変わり、現在は「発地の原  
 っぱ」と名付けた軽井沢南保育園の道  
 路を挟んだ南隣、二五〇㎡の私有地。  
 もう一つの「前沢の原っぱ」は、塩沢  
 通りから新幹線南側の側道沿いに入  
 ったところ、約六五〇㎡の町有地です。  
 （裏表紙の地図もご参照ください）

「前沢の原っぱ」や「発地の原っぱ」  
 では、アサマキスゲ、アヤメ、ウツボ  
 グサ、オカトラノオ、オミナエシ、カ  
 ワラナデシコ、キキョウ、ギボウシ、  
 サクラソウ、マツムシソウ、ワレモコ  
 ウなどなどがそれぞれの季節が来る  
 と咲き誇ります。ようやく最近、自賛  
 できるほどになってきたという感が  
 あります。この間、やってきたことは  
 先にも書きましたように草や生えて  
 くる灌木を抜き取ることでした。放っ  
 ておくとヒメジヨオン、セイヨウタン  
 ポポ、ブタクサ、クローバーなどの外  
 来種、スギナ、オオバコ、ヤブマメや  
 ススキのようなイネ科の植物など威  
 勢の良い「雑草」が繁茂し、また藪に  
 なっていたはずです。良くも悪くも  
 「花壇づくり」とは違っていたと思い  
 ます。「花壇づくり」の場合、「この  
 ような花をこの場所に」といった「設  
 計」が行われることが多いでしょう。

品種改良を経た強い草花、それも苗であれば目論見通りに花が咲くのでしようが、山野草の場合、もっとデリケートです。活動の初期には軽井沢植物園から野草の種をいただいて蒔いたりもしましたが、期待した結果があったとはいえないようです。今にして思えば、そして格好良く言えば、当会は野草が繁殖するための環境づくりを精を出したのであって、後は自然に任せてきた、つまり野草は自身の力で芽を出し繁殖してきたということでしょう。

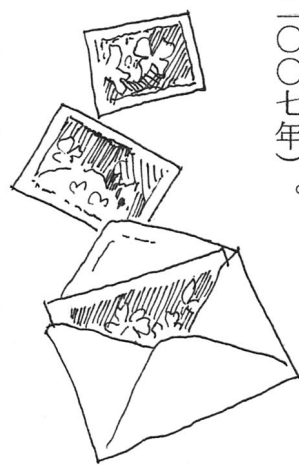


「前沢の原っぱ」と「発地の原っぱ」は、軽井沢町全体からみるとほんの微々たる存在です。しかし少なくとも

道路から見えるところで山野草が咲き誇っているのを見ることのできる、わずかな土地の二つであることは確かです。少し大きですが、山野草の良さを知って頂くために一種の展示場を作ってきたといえるかもしれません。ならばこれからはなるべく多くの方に見て頂くよう努めねばなりません。

当会は草むしり以外の活動もしてまいりました。子供の自然学習に少しでもお役に立てればと、毎年、軽井沢中部小学校のクラブ活動「軽井沢自然クラブ」に講師の手伝いとして参加しています。講師は蝶の写真家栗岩竜雄氏で、校外に出て昆虫採集をしたり植物を観察したりするバスハイクの間は大人でも楽しい時間です。昆虫に詳しい子、コケ類に詳しい子にも出会いました。

栗岩さんに依頼し、軽井沢の花を題材とした絵はがきセットを製作、販売したこともありました(二〇〇六年、二〇〇七年)。



軽井沢町の商工会や社会福祉協議会等が協同で運営する「ルイザ券」という地域通貨があることはご存じですか。われもこの会は「ルイザ券」の前身ともいえる「われも券」を二〇〇一年から一〇年間発行・管理していました。「ルイザ券」の登場で「われも券」の使命は終了。「われも券」時代から「地域通貨が使えるお店」として長くおつき合い下さったお店の皆様にはたいへん感謝しております。現在、ほぼ同じ仕組みで使用範囲が拡大

して「ルイザ券」が使われています。基本は「安心ほつと会員」が「サポート会員」からサービスを受けた時、「ルイザ券」で謝礼を支払い、「サポート会員」は受け取ったルイザ券を商品券として町内の加盟店で使用します。われもこうの会の地域通貨の利用方法は、年会費から「ルイザ券」を購入して、草むしりなどの活動をした会員に報酬として支払います。活動に参加できない会員も年会費を納めることにより会の活動に貢献できます。そして地域通貨が町内で循環することによ



ってまちづくりにも役立てたいと「われも券」時代から続く取り組みです。ホームページを開設したのは二〇〇二年三月。昨年、ようやくリニューアルし、会員が自由に記事や写真を投稿できるようになりました。

二〇〇六年、軽井沢観光協会主催のオープンガーデン事業にも参加しました。個人のお庭を公開している方々との交流が盛んな数年間でした。また美術館やホテルなどの庭を見学する機会をいただきました。

最近では、年に一度の「ちいき活動みほん市」が他のボランティア団体や町民の皆さんとの交流の場となっています。一昨年までは冬のイベントでしたので種しか配布できなかったのですが、初めて五月開催となった昨年

のみほん市では苗を配布しました。会員の庭やわれもこうの会の原っぱからかき集めた苗、全部で二六種三七六鉢を無料で配布したのでした。

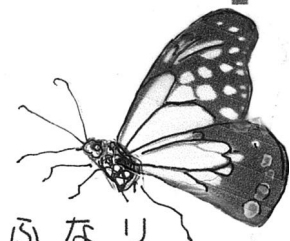
当会が発足して一、二年は、会員十数名、平均年齢五〇才くらい。その後、七七名まで増えましたが、年月が経ち入会者より退会者の方が多い時もある。現在では四〇名で、女性二七名、男性一三名。平均年齢は六五才くらいでしょう。発足時、入会した働き盛りの三〇代、四〇代の会員もいまや五〇代、六〇代。ここ数年の入会者はほとんど六〇代です。真夏のカンカン照りの下で草むしりをする根性があるのは六〇代、七〇代！ 元気にわれもこうの会の活動を支えています。

《「われもこう」編集室》



ヨツバヒメヨドリ

# フジバカマとアサギマダラ



萩の花 はぎ 尾花 おばな 葛花 くずばな 瞿麦の花 なでしこ

女郎花 をみなへし また 藤袴 ふらばかま 朝貌の花 あさがほ

万葉集巻八

貧窮問答歌等で有名な山上憶良が詠む秋の七草です。藤袴が六番目に登場しています。人にやさしく懐かしい歌を憶良が詠んでくれました。

我が家の小さな庭にフジバカマの株が三つあります。二つは購入したものでもう一つは会員のYさんから頂いたものです。三つとも大きくなり秋になると見事な花を咲いて楽しませてくれ、しかもますます元気に成長して我が家の他の花たちを圧倒している程です。それならなんで狭い庭に三株も植える必要があるのか。花の鑑賞なら一株でも十分だろうと言われそうですが、実は三株にしたのは理由があるのです。

追分の地に引っ越してきた二〇一三年の秋、我が家の庭の片隅に咲いていたヒヨドリ

リソウに、水色の色鮮やかな蝶が、一般的なアゲハチヨウと違って直線的に飛ばず、ふわふわと飛んで来たのです。この時はこの蝶の名前も性質も知りませんでした。偶然にも妻が「謎の蝶アサギマダラはなぜ海を渡るのか(栗田昌裕著)を買っていて、もしかしたらあの蝶はこれかなと本で確認したらアサギマダラそのものでした。びっくり仰天の一言です。

この本によりますと、アサギマダラの雄の特徴は雌を引き寄せるために独特の性ホルモンを分泌し、その生成にフジバカマやヨツバヒヨドリなどの蜜に含まれるピロリジンアルカロイドなどが必要だそうです。さらにもう一つの特徴は、気温が二〇度前後でないとは活動できないということです。そのため、春に沖縄の喜界島周辺から発生すると気温の上昇と共に涼しさを求めて北上し、夏が終わりになり気温が下がってくると今度は南下していく「渡り蝶」でもあるということです。軽井沢周辺では九月中旬に南下しますので、その時期に先程述べたピロリジンアルカロイドが含まれるフ

ジバカマやヨツバヒヨドリなどあれば、蜜が欲しくて立ち寄ってくれるのです。

なるほどそういうことだったのか。ヨツバヒヨドリはなかなか手に入らないけれど、フジバカマならどうにか手に入るかと思いい、蝶を呼ぶために一株でなく三株にすればさらに寄ってくれる可能性が高いだろうと植えたものでした。お陰様で予想通り去年も我が家の庭にも数多くのアサギマダラが飛来して来てくれました。

ところで、私は東京足立区の片田舎で育ったせいか、「秋の七草」と言ってもフジバカマの名前は知っていましたが実物は見たことはありませんでした。フジバカマは軽井沢での嬉しい出会いの一つです。

この花は何と言っても匂いが良く、枯れても持続することです。蝶が去っても人間を楽しませてくれる嬉しい花です。部屋の片隅にドライフラワーとして置くといつまでも良い匂いで満たされ、音楽を聴いている様に気が落ち着きます。山上憶良もきつとこの匂いを楽しんだに違いありません。

われもこの会の会員 田口友己



# 長老会員Aの「ト」リ「ト」

二十周年特集号によせて

戦後、満州から引きあげ、父の故郷である軽井沢で幼い頃を過ごしました。その頃は自然豊かで、リンドウ、サクラソウ、ヤマユリなどがいたるところに咲いており、町内どこからでも浅間山が見えました。夏には植物図鑑で有名な牧野富太郎先生のお弟子さんがやってきて子供向けの植物学教室を開催しており、幾度となく参加しました。その後、首都圏に移住し、技術者人生を過ごし、幾十年が経ち、退職を機に軽井沢に戻ってペンション経営をはじめました。小さい頃に刷り込まれた植物への想いが湧き上がり、いろいろなボランティア団体に加入しました。その一つが結成間もないわれもこの会でした。

最初の作業は空き地を原っぱに変えることでした。空き地はコンクリートなどの廃材だらけ、ススキだらけ、シバだらけで、石を取り除き、土を入れ替え、草をむしり、やがて徐々に原っぱらしくなってきました。入会した頃は、男性会員は少数でしたが、その後、だんだん男性会員が増えていき、作業に参加する人も多くなってきました。かつては嵐でも会員が原っぱ作業に出てくる

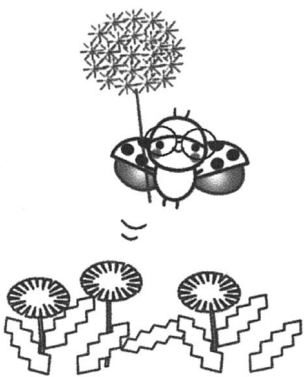
ので、「われもこの会ですごい会だなあ!」と思いました。最近では会員の高齢化のため、このような情景はみられません。また、このような事もありました。八月の終わり頃、前沢の原っぱで作業後お茶を飲んでいたら、パトカーがやって来て、「開けっ放しになっている車のドアを閉めるように!」と注意されました。しばらくして黒塗りの車が通りがかり、私たちに向かって手を振るお方は・・・皇后陛下でした。オミナエシの黄色い花が原っぱ一面に咲いていました。

二十年前近く経過し、現在も参加しているのはわれもこの会のみとなりました。何故か? 何とはない「居心地の良さ」かもしれません。縛りはコルく、いろいろな分野で活躍された心の広い「変人」たちとの共同作業や語らひは心もむものです。人が集まるとメモゴトが起りがちですが、われもこの会ではそのような「ト」は起こりませんでした。会の雰囲気とその理由があるのでしよう。最近では鳥たちの声が変わったように感じます。アカハラは見かけなくなり、ハクセキレイが増えたように思います。鳥は虫を追い、虫は植物を選ぶので、植生の変化に伴い鳥たちの種類も変わったのかもしれない。

毎年、多くの人が軽井沢に別荘を構えます。土

地探しの時には周囲の景観を見ても、その土地に生えている草花樹木に注意を払う人はごく少数派です。今では貴重となったオキナグサなどの植物たちが新任人の工事によって破壊される情景を幾度となく見ました。痛ましいことです。もし、そこにある植物たちについて知っていれば、そのようなことにはならなかったと思います。山野草に詳しい大工さんから敷地に生えている植物に関する説明を聞き、それらを活かした庭造りを行った会員がられます。ハナヒョウタンボクやリソゲシヨウマが咲き誇る、庭造り名人の会員でも羨む素晴らしい庭になっています。自生している植物たちを活かして、費用と労力でチョッピリ手助けしてあげれば、軽井沢らしい庭に変身すること請け合いです。土地探しをする際には春・夏・秋と草花樹木を見に来てください。(T.A.)

(注:本稿はT.A.さんへのインタビューに基づき、編集室で文章化しました。)



## ◆はじめまして！

### 新入会員の 声

われもここの会の噂は時々耳にしており、野原の手入れをして野草を咲かせ、更には野草の種や苗なども頒布していると聞いていたので、いつか様子を見せていただきたいと思っていたところ、隣人のH.Y.さんが参加されているとの事で同行させて頂きました。気の置けない会員の皆さんとの楽しい経験で、即入会を決めていました。無駄になっている空き地に野の花を咲かせる活動は、前向きで私の考えに合うものなので、続けて行きたいと思っています。草刈りは高齢者の身体には決して楽ではありませんが、そこに花が咲き始めると思うと嬉しい労働に思えます。体力さえあれば、もっと活動する範囲を広げて、軽井沢の町の至るところに野草を見られるようにしたい。どうしたらそんな夢が実現に近づけられるか、その方法を考えることをこれからの課題としたいと思います。

(ハアンブ)

## ★ホームページ、リニューアルしました★

昨年、われもここの会のホームページ(以下HP)をリニューアルしました。リニューアルの目的は三つありました。

- (1) レンタルしていたサーバーがサービス停止となるため、引っ越しする必要があった。
- (2) 情報発信頻度を高める。
- (3) 会員間の情報交換の場を提供する。

昨年(2017年)4月下旬から構築を開始し、5月14日に公開にこぎつけました。HPはそれまでとは異なり、ブログ形式を採用したので、記事の投稿が簡易にできるようになりました。公開後、利用者の要望を取り入れて仕様変更・機能強化も図りました。項目(1)、(2)については目的を達成できた、と考えていますが、項目(3)については、まだ十分とは言えない状況にある、と考えています。現在、記事を投稿できるのは登録会員のみとなっています。「記事を投稿する」と言うと敷居が高く感じますが、気楽に考えてください。普段感じたこと、見聞きしたこと、人に聞いてみたいこと、などなど、また日記帳や「備忘録」として使うとか、使い方はいろいろです。自分にとっては当たり前の事が、他人にとっては貴重な情報である場合が多いです。会員の皆さまのご参画を強く要望する次第です。未登録の方は、この機会にご登録いた

だくようお願いいたします。

昨年の運用状況は次の通りです。

(集計期間:2017年5月14日～12月31日)

訪問者数(閲覧数)	381 (7143)
アクセス数が多かった月	9月
アクセス数が多かった曜日	月曜日
アクセス数が多かった時間帯	午後9時

### <投稿記事アクセスランキングトップ5>

1. 八月の庭(しえるな)
2. アサギマダラ、見てきました(変な酋長)
3. 発地の原っぱ(2017/7/9) (変な酋長)
4. 両陛下、前沢の原っぱを目に(こーちゃん)
5. 房総の秋に、蕎麦道をたどる(こーちゃん)

見逃した方はHPの右上に検索欄がありますので、タイトル名や著者名で検索すると当該記事が表示されます。

われもここの会へのお問い合わせはHP上部にある「お問い合わせ」ボタンをご利用ください。

(HP管理人)

(<http://waremokou.whitesnow.jp/Waremokou3>)



# われもこうの会の原っぱで会いましょう



## 2018年の作業日

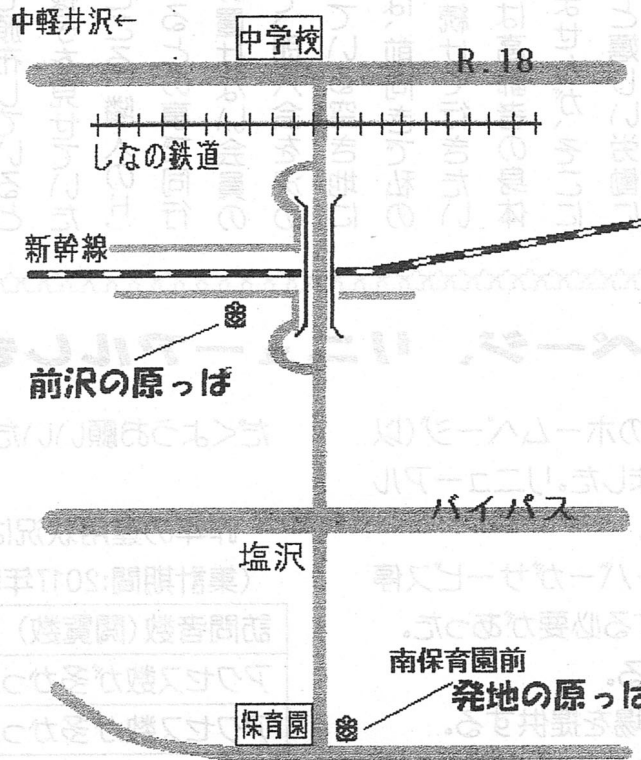
- 5月13日(日)
- 23日(水)
- 6月3日(日)
- 13日(水)
- 24日(日)
- 7月4日(水)
- 8日(日)
- 18日(水)
- 8月5日(日)
- 22日(水)
- 9月9日(日)
- 19日(水)
- 10月14日(日)
- 24日(水)
- 11月11日(日)

▶日曜日は 発地の原っぱ

▶水曜日は 前沢の原っぱ

午後1時30分 集合

作業の進行状況等により移動することもあります



▶雨天中止

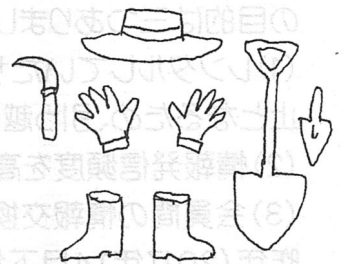
小雨の場合決行することもあります

▶持ち物：園芸用手袋

スコップや草刈り鎌

日除けの帽子、長靴

水筒(熱中症予防に)



作業日のちょっと見学、OKです。  
われもこうの会の活動に興味のある方、  
気軽にお越しください♡

### ★今年度より年会費を改定しました★

【旧】1,000円 65才以上 500円



【新】年齢にかかわらず 1,000円  
ただし夫婦・家族で入る場合  
2人目から 500円



## 第8回ちいき活動みほん市のおしらせ



～みんなでつながろう！自分たちの力(住民力)を高めて

まちづくりの <sup>ウイング</sup> 翼 を広げていこう！～

期日：平成30年5月27日(日)午後1時30分～3時30分

会場：軽井沢町中央公民館 大講堂他

主催：第8回ちいき活動みほん市実行委員会

共催：軽井沢町社会福祉協議会



われもこうの会も出店します。山野草で庭づくりしたい方、お立ち寄りください。苗や種をご用意してます！



発行/野の花を増やす会 われもこうの会 Tel/090-4442-4387 Fax/46-3064